

タイ紀行文

森林生物循環学研究室 3年 今井光岳

私たちは10月31日から11月9日までの10日間、タイのチェンマイへ調査に行ってきました。

私自身タイに行くのは初めてでとても楽しみでしたが、言葉の壁や異国の地ということで楽しみとともに不安でした。しかし、実際にタイへ行ってみると、言葉の壁以上に自分の精神的な弱さを強く感じるものとなりました。もともと社交性がないということもありますが、このタイでの経験で根本的なところから考えさせられ、とても貴重な時間を過ごすことができました。

このような機会をくださった先生方やタイでお世話になった先生方、また研究室の皆様に心よりお礼申し上げます。



タイの思い出

飛行機から降りた瞬間、暑いような温かいような気温が体を包み、軽くジョブを打たれた気分でした。11月はタイでは冬の時期にあたりますが、日中の気温はなんと30℃近くもあり、冬にもかかわらず半袖でないと過ごせませんでした。

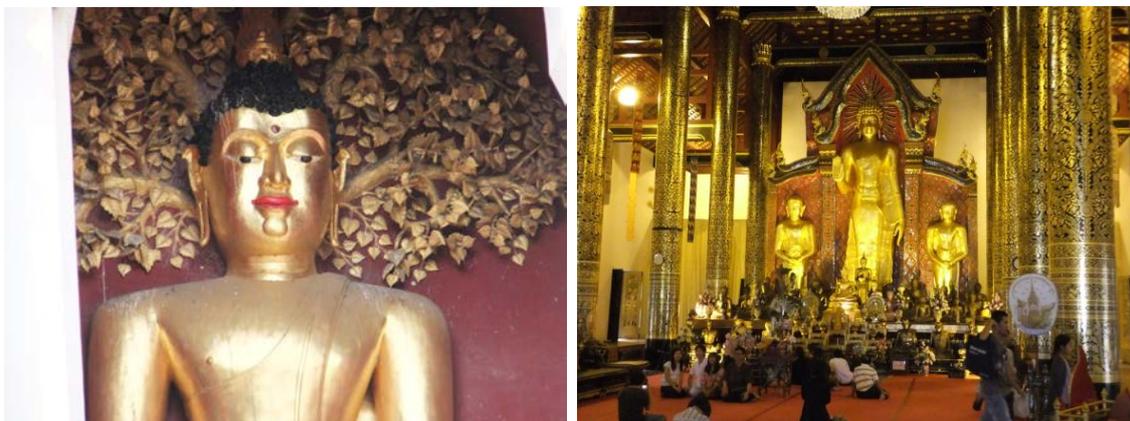
タイでは調査の間に植物園や動物園、タイガーキングダムなどいろいろな場所へ行きました。植物園では日本では観られないような熱帯の大きな植物やサボテン、またその他いろいろな植物を直接観ることができ、また動物園では鳥だけのブースがあったり、パンダを初めて観ることができたりしました。パンダはさすがに人気だけあって、他の動物よりも態度がでかく、人間味を感じました。このパンダの写真は斜めから撮ったものですが、正面からが一番迫力がありました。またタイガーキングダムでは、人間とトラが触れ合っている衝撃的な場面を観て、タイのスケールはでかいなと思いました。

タイには寺院がたくさんあり、タイの人々の宗教の信仰の深さを感じました。ほとんどの寺院には金色の仏像や本物そっくりのロウで作られた僧侶の像があり、また壁には仏教の歴史のような絵が描かれて

いました。僧侶の人数も日本のお坊さんとは比べられないほどおり、オレンジ色の服を着



た僧侶がいたるところを歩いていました。



コミュニケーション

今回考えさせられたことの一つにコミュニケーション能力があります。タイ語や英語が話せないことで自信がなかったことも少しはあったかもしれませんが、異国の人と会話しだすのになかなか勇気がでず、正直びびってしまいました。タイの先生方から話しかけてくださったときも、反応する前にどうしようとか思ってしまったたり、おどおどしてしまい、とても自分が情けなく感じました。言葉の壁以上に心の壁という大きなものを自分で作ってしまったと反省するとともに、またそれを自分から壊していかないといけないととても感じました。今後また海外に行く機会があったり、新しいことに挑戦するときには、もっとビッグな人間になりたいと思いました。